



弘大ウェルビーアイニング領域拠点

総合研究所が開所

力ワチ 最高顧問 「新知見、示したい」

弘前大学(福田眞作学長)は12日、Well-being(ウェルビーアイニング)心身および社会的に健やか

で幸せな状態・領域の研究拠点となる「グローバルWell-being総合研究所」の開所式を行い、イチロー・カワチ最高顧問らが

テープカットで船出を祝った。研究所では分野の枠を超えた総合知と産学官民金の連携で、世界的な先端研究・実証・開発に取り組む。

本格始動は来年4月から。世界で重視される「ウェルビーアイニング」。弘前大は世界的な卓越研究大学群の構築を掲げ、今年1月に国、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-P-EAKS)」に採択された。研究所はその拠点となり、

開所式でテープカットする
福田学長(右から2人目)、
カワチ最高顧問(同3人目)

国内外の研究者100人ほどが所属、住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」で蓄積された健康ビッグデータを核に研究を進めしていく。

式典で福田学長は「(同

研究所では)地域課題の解決と国際的な研究を進めることも、研究成果を社会に還元し、地域と世界、双方に貢献するため成長していく」とあいさつした。

カワチ最高顧問は取材に対し「日本は長寿でありながら幸福度が低い。健康ビッグデータを核にさまざまな研究を進め、新たな知見を示したい。青森県、日本、そして世界のウェルビーアイニングに貢献するため、世界中から若手研究者を集め、など人材育成にも力を入れていく」と語った。

石橋恭之所長は「全学を挙げて研究に取り組む」と強調。同研究所に集結する国内外の研究者らに対し「視野を広げ、社会課題を解決する新たな系団を見いだしてほしい」と期待を寄せた。(稻葉智絵)